

三重県環境影響評価委員会小委員会
－第8期管理型最終処分場建設事業に係る環境影響評価方法書－
調査審議概要

平成29年6月23日（金）13時30分～

三重県伊賀庁舎 第6会議室

委員A：環境影響評価方法書に係る意見書の意見1の方法書の関係地域の範囲についてというところで、風配図のことが書いてあったのですが、特に冬場において西風が強くて、あとは北北東の方向に風が吹いていますが、この意見書と同じ意見を持ったのですが、この現地の調査地点において、西側はあまりなかったように思いますが、山林の地域であり住宅地が無いということで設定されてないということでしょうか。

事業者：まずですね。住民意見の方ですが、ちょっと風向きを逆に考えられているみたいでして、西の風を西に向く風という風にご理解されたみたいで、ご意見の風向きが逆転しているということで今回、回答しております。調査地点につきましては、先生おっしゃられましたように、現場でも見ていただきましたが、西の風なので、東側を地点としております。こちらが、大気の地点でございます。主方向は西からの風になりますので、こちら（西）からこちら（東）に吹く風が主だという状況でして、我々も風向は確認していますが、設定する中で、今回は大きな煙突もない状況で、それほど遠くまで飛ばず、影響範囲は200m程度かなと考えています。その中で、住居地域への影響を見るのが妥当だと考えまして、近隣の住居地域、一番多く住んでいるのが予野地区になりますので、こちらに2地点を設定しまして、見ていただいたと思うのですが、名阪青葉台の方はあまり住んではないんですが、こちらも対象ということで、3地点を設定させていただいたという次第でございます。

委員A：ありがとうございます。あとは、環境影響評価方法書の3-7の大気質のところ、表3-2-1の上のところの文章で、「大気汚染に関する苦情については、平成26年度において、伊賀市では3件報告されている。」とあるのですが、これは処分場とは関係ないところで報告されているという解釈でよろしいでしょうか。

事業者：数については把握していますが、内容までは把握しきれておりませんので、あわせて確認しておきます。事業者としては、伊賀市さんから、何か（連絡が）来てることはございませんので、違うかと思えます。

委員A：P3-15で水質の環境基準の適合状況を調べていらっしゃるようですが、今回の予野川と北山川というのは、今後行われるということで、現況で行われている河川のみ資料ということでよろしいでしょうか。

事業者：そうですね。こちらは既存の資料調査になりますので、周辺の三重県さんがやられておられます水質の過去のデータですので、これを取りまとめて示しているところです。近々のものに関しましては、水質の調査で行うということで考えているところでござい

す。

委員 A : P4-3 の環境影響評価の項目の選定理由及び除外理由のところ、微小粒子物質の検討結果がバツになっていますが、選定理由及び除外理由のところ、最後の行で「ただし、影響の可能性を考慮し、現況調査項目として選定した。」と書いてあります。これは、一般測定局の結果を使うということによいのでしょうか。

事業者 : いわゆる PM2.5 に関してですが、残念ながら予測評価の方法が確立されていないということで、影響はあるかと思いますが、予測評価の対象としていないのが現状です。ただし、現状を測っておくべきと考えて、現況の状態は実際の現地調査地点で測ります。ついでに言いますと、星印(の地点)で PM2.5 の測定もあわせてさせていただく計画です。

委員 B : この工事に入る前の経緯をお聞かせいただきたいのですが、今回の事業は第 8 期ということですが、第 7 期に同様のこのような手順を踏まれていると思います。この今回の方法、環境等の調査方法等を挙げていただいているのですが、以前の場合と比較して、特に大きく変わった点とか、そのような点がございましたら教えてください。

事業者 : 前回の第 7 期の時もこのような手続きをさせていただき、方法書を第 7 期で出させていただいて、色々ご指摘いただき、ご指摘いただいたことは、あらかじめこちらには入れようという方針でやっています。細かい話をしますと、事業実施区域内に溜め池がありますが、(第 7 期の方法書では、)そこを調査の対象としていませんでしたが、調査をしよう、とかですね。あと、水質で言いますと、方法書の P5-23 になりますが、調査地点を当初は W-1 と W-3、W-4 と W-6 を考えており、合流前をあまり意識せずにしていました。今回は大きな支流、支流と言いますか水路がありますので、W-2 の現況は押さえておいた方がいいのかなということで、前回にもご指摘はありましたので、W-2 を入れたり、W-5 も当初は設定していませんでしたが、こちらもご指摘を反映させた形で項目を設定させていただいた、そういったところがございます。

委員 B : ありがとうございます。続いて、放流に関してですが、工事中や事業が完成して運用となった後、両方で放流、何かしらの排水があると思いますが、例えば、一日当たりでも、一回当たりでも良いのですが、最大でどの程度の体積の放流を予定していて、実際に放流される川、北山川に放流する予定ですよ、その水位が最大放流時にどの程度あがるのか、もしくは、例えば、大雨の時に、その水路から漏れ出してしまうのか。そのような要素は無いとは思いますが、そういうことは考えているのでしょうか。要は、どの程度、水位が増すと、最大放流時に考えていらっしゃるのでしょうか。どこかで放流時点のコントロール、どこかに溜めて、今はこれだけ流そうとかできるのでしょうか。これを放流しようと思ったら、全部出し切らないといけないのか、どっかで溜めて、ちょっとずつ放流することができるのでしょうか。そういう施設はありますか。

事業者 : 雨水は調整池で調整します。

委員 B : 工事なりで出てくる、放流は雨水を考えているのでしょうか。

事業者 : 雨水は、工事中も調整池を先行して作ることになると思います。雨水につきましては、調整池の基準に基づいて、何倍確率で洪水を見ながら色々な調整槽をと言うのは、アセスとは別で設計されると思います。先生がおっしゃられるのは、調整池でもギリギ

リの時に放流水、排水を止められますかということですか。

委員B：はい。

事業者：調整槽を 25,000 (m³) という形で設定していますので、そこでバックアップするところからです。

委員B：わかりました。次にお聞きしたいのが、幹事会からの意見及び確認事項というところの番号の4番、健康項目の変動が非常に小さいので、生活環境項目に比べて年1回で十分ではないかと考えていらっしゃると思いますが、実際に一般的にこういうことは考えられるとは思いますが、工事という特別な環境下になるわけで、そういう場合であっても大きな変動はないと考えていらっしゃるのでしょうか。質問に出るといことはちょっと心配されている、要は年1回の調査で十分なのかという心配があるのだと思うのですが、実際どうなのか、お聞きしたいです。

事業者：このご質問自体が、供用でのことと工事中のことが、2つ、質問になっているという理解をしております。まず、「健康項目が1回でいいか」という質問と、「工事中で関連してやる調査で、降雨後調査でやりますが、その4回はいつやるのですか」という質問になろうかと思えます。工事中は健康項目に及ぼすようなものは出ないと考えています。雨が降ったとしても健康項目に条件が出るものはなく、あくまで濁度、SSが対象になると思えます。それに関しては、雨の多い時期、6月から10月にかけて、4回設定しておりますので、そういった工事の特別な時の状況を把握するための調査としては、カバーできるかなと考えております。

委員B：つまり、工事中に実際、健康項目に引っかかるような化学物質を含むものを使用するということはないということですね。

事業者：そうですね。使用もしませんし、掘っていただけですので、そういうようなものが出てくることもないと判断しています。

委員C：私の方から4点ほどお聞きしたいのですが、まず、説明資料の画面37(表5-8-1)の、ここには地下水の分析は年一回と回答されていますが、月は何月ですか。

事業者：渇水期に一回行いますので、冬場です。

委員C：2番目は、画面45(表5-10-2)と49(表5-13-2)で、陸生動物、生態系のところ、可能な限りと書いてあります。この意味はどうとらえたら良いですか。

事業者：やはり、動植物です。

委員C：必要なければ、定量的にしないという意味にとって良いのですか。

事業者：重要種に関しましては、出来る限り定量的な予測を実施するように考えてはいますが、昆虫類ですと……、植物は出来ませんが、外行ったりしますので、その辺で、定性的になりかねないということがありました。完全に定量的って書いてしまうと言葉尻的に齟齬がでてしまうので、表現としては可能な限りとさせてもらっています。

委員C：要するに、定性的にはちゃんとやるけれど、定量的には、動物については、難しい要素があるのでこういう書き方をしている、ということですか。

事業者：はい。

委員C：わかりました。3番目は、画面10(図2-3-5)のこの埋立て終了後に関連して、ま

ず、東西南北の断面積、この現場の工事の始まる前、工事が完了した後の底が見えている状態、それともう一つは、この画面 10 (図 2-3-5) の埋め立てた後の断面積を示して欲しいと思います。と言いますのは、先ほど委員 B から質問がありましたように、雨水とかそういうものの、流れる表面水の流れや大型の地震等の災害があったときに土砂がどう崩れて、どう流れるか。真下に田んぼなどもあるわけで、そういうところへの影響も考えられますので、是非、工事にかかる前の東西南北、南北というのは例の調整池も含めた直線 (の断面)。それで、この現場の工事が完了した場合の断面、掘りますよね。あとは、満杯になったあと、どれくらい盛り土をするかという、いずれも東西南北の断面図を災害緊急時、そういうところから必要ですので、是非お知らせ願いたいと思います。

事業者：今、ボーリングとかやまして、詳細な断面図とかは、これからになります。準備書の段階で当然 (、示せるかと思いますが)。

委員 C：妥当な回答も含めて、事務局がまとめて、質問を出されますので、回答ができるようでしたら、また、回答が出来ない場合は、事務局が私の質問に対して、そういう資料は必要ないと判断された場合には、あとでいいので、その旨を私の方にも事務局の方から連絡が来ると思いますが。是非、要望ですけどお願いします。

最後の質問ですが、廃土はどうするのでしょうか。というのは、ここ、農耕地ですよ。残留農薬とか下手したら水銀、その辺の記述がちょっとなかったものですから、ちょっと考え方をお聞かせ願いたいと思います。

事業者：今回、工事は 2 期に分かれており、今、スライドで出しておりますのが、第 1 期工事の埋め立てができる直前の図面 (図 2-3-3) です。北側半分をまず掘りまして、廃棄物を埋め立てるような恰好にしまして、ここを掘った土は、この南側に一度仮置きします。廃棄物を埋めていきますと、当然土砂が覆土として要りますので、ここに置いて、また戻すということを行います。ですので、1 期工事に関しましては、場外には搬出をしない計画にはしています。2 期工事になりますとこっち (南側) をまた掘りますので、その時は先生おっしゃられるように土を出すのであれば、適切な分析なりをして出すことになろうかと考えております。

委員 C：わかりました。